

2016 年

国 語 (A)

(時間 50 分)

<解答を記入するときの注意>

1. 試験開始のあいずがあるまで開かないこと。
2. 受験番号は解答用紙の定められたところに記入すること。
3. 解答は解答用紙の定められたところに記入すること。
4. 文字はていねいに書くこと。
5. 答案ができあがっても終了のあいずがあるまで着席し、指示にしたがって提出すること。

高 輪 中 学 校

一 次の問いに答えなさい。

問 一 次の傍線部のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

- 1、何とか親としてのタイムメンを保てた。
- 2、卒業証書をジュヨする。
- 3、鏡にウツった自分の姿を見た。
- 4、あなたの座右の銘は何ですか。
- 5、茶道の大家とお話をする機会を得た。
- 6、富士山の気高い姿を眺めた。

問 二 次の1～4の□には全て数字が入ります。上の数字の方が大きければA、下の数字の方が大きければB、両方とも同じであればCと答えなさい。

- 1、「八面□^へ臂の大活躍を見せた。 あまりの痛さに□^へ転八倒した。」
- 2、「□の五の言って約束を守らない。 身につけるのに□^へ苦八苦した。」
- 3、「日本には八□^{よろず}万の神がいる。 あの歌は彼の□^へ八番である。」
- 4、「誰もが□の足を踏む仕事である。 □^へ人寄れば文殊^{もんじゆ}の知恵という。」

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数に制限がある場合は、句読点や記号も字数に含まれるものとします。

それから、¹思春期・青年期に精神病になる人は、ふしぎに小学校のとき成績がトップだったという人が多いようです。二十年も入院しているある患者に聞いてみましたら、やはり小学校のときトップだったといいます。一番でいるというのはなかなかきついことです。追い越すということはなくて追い越されるだけです。また小学校でトップでも、中学・高校となるとそうはいきません。そこで打撃をうけるわけですが、子どものプライドは大人のそれよりもずっと傷つきやすいのです。²子どもの劣等感²は伸びていくためのバネにもなりますが、たえず子どもを脅^{おび}やかして慰^いませないものもあります。必死になってよい成績を維持しようと努力するのにも限度があつて、力尽きてしまうケースが多いようです。³成績のよい子には不幸な一面があります。ちょうど⁴美しい人が、美貌^{びぼう}ばかりが目だち、心の優しさとか他のよい性質が隠れてしまつて「面^{おもて}く^くい」ばかりを周囲に集める不幸があるように、成績のよい子も、成績ばかりが評価されて、成績以外の部分、つまり普通の子どものとしてのよさを親も先生も見えてくれない場合があります。他の自分の価値が支持されない⁵ので、トップから降りられなくなつてしまうことも確かにある、と思います。

子どもの治療のひとつのむずかしさに、子どもには「大人は全部⁵グルだ」という感じがあつて、これが治療の妨^{さまた}げになります。秘密は話してくれませんか、親や先生との対人関係の本当のところは少しもわからないことになつてしまします。子どもは、「これは危^{やば}い」と思うと実に他人行儀でそらぞらしいことを言います。もちろん治療者は親や先生と横の連絡をとらなければなりません、へたをすると子どもからみてグルと思われる。この辺がむずかしいところです。治療者は親や先生とグルではないのだ、君とつながっているのだということを理解させなければなりません。「⁵あくまで君が問題なんだ。君が対象なんだ」ということを何度も何度も態度で示して、はじめて子どもは治療者を信用してくれるのです。

それでは親子関係の情報をどうやってとるかと申しますと、まず子どもだけで会うとか子どもを前においてしか親と話し合いをしないことが多いのですが、かえって親子関係はよくわかるものです。こういうところから始めると、親のことを子どもが正直に話すようにもつていくことがやさしくなります。

親との面談の場合でも、親はまず「子どもはどうですか」と聞いてきますが、その場合に私は「7」という聞き方をします。そうした方が親が本当に言いたいことを話してくれるような感じがします。われわれ相談を受ける側には、聞かれたら何か「科学的」な答え方をしなければ^注 沽券にかかわるのではないかといった⁸「病氣」がありますが、そういう解答癖はなるべく出さないほうがよいのです。わからないことは「わからない」といい、最後に一言ちよつと答える。それも、ものものしい言葉でなく普通の言葉です。親の目から見てどうであるかをよく聞き、親の苦労話なども聞いて苦労をねぎらうことは非常に大切です。そこからお互いの信頼感も生れ^{うま}、親もうわべでない本当のところを話してくれるようになります。そうすると、何も親とグルにならなくても、子どものおかれてる場、子どもの重荷というものもまたよく見えてきます。

子どもは二つの仕事をやらなければならないのです。ひとつは現在に應えること、例えば今日の宿題はすぐ解かなければなりません。もうひとつは将来のために力をたくわえることです。現在の中からその余裕を残すようにしなければなりません。この二つの仕事がうまく結びついていけばいいのですが、それがなかなかむずかしい。現在に花開いてしまったとき、例えば⁹ 学校の成績が非常に上がったときがかえって危ないな、という感じがします。

しかし、¹⁰ 不幸にして精神病様状態になったとしても必ずしも悲観するには当たらないと思います。思春期は生命的に伸びていく時期ですから、回復する可能性は大人よりも大きいと思います。治療の時間が足りないことを私どもは痛切に感じますが、それでも当人の回復力が非常に強く現われて、われわれが大きく救われているわけです。病氣をしたこと、^注 踊り場で少し休んだことが、新しい生き方の可能性を開く場合も決して少なくなかったと私は思います。いままで教科書しか読んだことのなかった秀才が、病氣で休んだことによって周囲を見渡して、自分の好きなものを見つけたということも少なくありません。ですから、逆に言って、病氣になる前に勉強以外のことに何か興味をもっていたかどうか、友人が一人でもいたかどうかということが随分^{すいぶん} 予後を左右すると思います。いまの人は手紙を書かなくなったといいますが、それは表面的な観察で、私どもの思春期の時代にはなかった「日誌の交換」がはやっていますし、本当は一对一のコミュニケーションを実に求めているようです。少しおどけたような丸っこい字を書いてマンガ入りの手紙をやりとりしています。思春期が親密な相手を求めなくなるとは一寸^{ちよつと} やそつと時代が変つても思えない。実際、¹¹ しばしば、友人が転校したことが病氣の引き金になることがあります。

《中井 久夫『思春期を考える』ことについて》より》

(注)

グル……………共謀者。仲間。

沽券にかかわる……………信用にさしつかえる。

踊り場……………階段の途中の少し広い場所。ここでは比喩的に使っている。

予後……………病氣の治療のあとの経過。

問 一 — 1 「思春期・青年期に精神病になる人は、ふしぎに小学校のとき成績がトップだったという人が多いようです」とありますが、その理由としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、成績の良さでしか自分の価値を認められないことから、人への優しさなどの価値を軽んじるようになり、孤立しがちだから。

イ、成績の良い子どもは通常よりもプライドの高いことが多いため、人から追い越されるとその苦しみを乗り越えられなくなるから。

ウ、学習内容が多様化し高度になっていく中で、トップを維持しようとするこのストレスに、常にさらされている状態に置かれるから。

エ、親や先生など周囲からの期待が大きいため、トップで居続ける子どもには、自分からトップを降りると言うことが許されていないから。

問二 ― 2 「子どもの劣等感は伸びていくためのバネにもなります」とはどういうことですか。説明としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、子どもは悪い成績をとりたくないという強い気持ちを力に、実際に成績を伸ばしていく可能性があるということ。
イ、子どもはよい成績をとれないことに思い悩み、そのことで逆に自分の価値は成績だけでは決まらないのだと気付くということ。
ウ、子どもは成績で他の子どもに負けたくないという気持ちから、なんとかして他の子どもの成績を落とそうとする傾向があるということ。
エ、子どもは成績が他の子どもより劣ることでプライドが傷つけられ、自分の他のよい部分を捨てても成績を上げようと努力するということ。

問三 ― 3 「成績のよい子」・4 「美しい人」とありますが、両者に共通する「不幸な一面」とは何ですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、自分の希望していることと他人が自分に求めていることが離れていて、自分が出せなくなること。
イ、目立つ長所ばかりが評価されるが、内面や人柄のよさを見抜いてくれる人に恵まれないということ。
ウ、他人からどう見られるかということばかり気にしてしまい、本当の自分の性質が見つけられないこと。
エ、もともと備わっている美点をほめられることで、努力もせず思いついた人間になってしまうということ。

問四 ― 5 「あくまで君が問題なんだ。君が対象なんだ」ということを理解させるための具体的な方法を、文中の言葉を使って二つ答えなさい。

問五 ― 6 「はじめて子どもは治療者を信用してくれるのです」とありますが、治療者を信用していない子どもはどのようなことを話しますか。文中から一五字以内で抜き出さない。

問六 7 に入る言葉としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、まずはお子さんに直接聞いてみませんか
イ、お母さんの目から見てお子さんはどうですか
ウ、具体的にどんな点についてお知りになりたいのですか
エ、私も正直に話すのでお母さんも正直に話してください

問七 ― 8 「病氣」とありますが、「病氣」がついている理由として、ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、本当の病氣ではないが、多くの治療者が苦しんでいる事実を強調するため。
イ、病的な面を持つ治療者の存在を指摘し、そのような治療者への批判を強調するため。
ウ、「科学的」についていたのと同様、専門的な立場からの言葉であることを示すため。
エ、ここでは癖くせという意味で使われていて、一般的な病氣の意味ではないことを示すため。

問 八 — 9 「学校の成績が非常に上がったときがかえって危ないな、という感じがします」とありますが、その理由としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、現在の仕事に完全に適合することによって、そこから次の段階に踏み出すことが困難になり、余裕のある将来を迎えることが困難になるから。
イ、現在に才能を開花させることによって、大人になった将来にそれ以上の伸びがなくなることが予想され、そのときに発病する可能性が生じるから。
ウ、現在大きく成功することによって、将来のたくわえとして残しておくべき余力を、現在の状態を維持するためにつぎ込んでしまう恐れがあるから。
エ、現在の段階で周囲の期待に応えることの喜びを知ってしまうことで、自分の希望に基づいて将来を切り開いていくことができなくなってしまうから。

問 九 — 10 「不幸にして精神病様状態になったとしても必ずしも悲観するには当たらない」とありますが、筆者がそう考える理由を説明しなさい。

問一〇 — 11 「しばしば、友人が転校したことが病気の引き金になることがあります」とありますが、その理由を五〇字以内で説明しなさい。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数に制限がある場合は、句読点や記号も字数に含まれるものとしします。

行方^{なめがた}一高の吹奏楽部の部長となった日向寺^{ひゅうがじたいし}大志は、顧問の土子晋太郎^{つちこしんたろう}先生とコンクールで演奏する曲を決めている。

「浮かない顔ですね」

誰もいなくなった視聴覚室。黒板の前に椅子^{いす}を持ち寄り、額を付き合わせるようにして曲を聴く。机の上のCDプレイヤーからは、ひつきりなしに同じ曲が繰り返されている。

「敵^{かな}わないですよ、先生には」

「部長になったことを後悔してるんですか」

「²それとは、ちよつと違います」

上手く言葉にできそうになくて、大志はプレイヤーを早回しさせた。かかったのはスウェアリンジェンの『シーゲート序曲』だ。優雅な出だしに聞き入りながら、土子先生は^{うづ}呟く。

「僕はこれで行ってみたいと思ってます」

「スウェアリンジェンですか」

「定番ですし、難易度も高くはないです。でも独特の^{（註）}転調。多種多様な伴奏、^{（註）}対旋律。メロディーもどんどん変化する。指導しがいのある曲です」

そして打楽器の音が多い。コンガに木魚、タンバリン、トライアングル。

「この曲、確か去年のコンクールでも候補に挙がってましたよね」

「そうですね。打楽器が回しきれないんじゃないかということで外したんです」

けれど、今年は^{（註）}志音^{しおん}がいる。管楽器パートの部員も持ち替えて演奏すれば、できないことはないかもしれない。

「日向寺君はどうですか」

「俺、もともとスウェアリンジェンが好きなんです。難易度が低いからって馬鹿にする連中もいますけど、親しみ深いし、

3 体に馴染む曲というか

テンポに表情があつて、鬱々とした気持ちを吹き飛ばす。足が勝手に前に出て、ずんずんと歩いて行けるような曲。

「思い切ったアレンジをすることになるでしょうが、面白い勝負ができだと思います」

「勝負、ですか」

「『配られたカードで勝負するつきやないのさ』という有名な言葉があります。人数が少ないけれど、それでも実力のあ
る子がある程度揃っている。ドラムを叩ける子がいる。それを最大限活かして、勝負するんです」

「それ、誰の言葉ですか？」

「スヌーピーです。『スノーピーナッツ』の」

真顔で言う先生に、強ばっていた体から力が抜けてしまった。

「……今度、図書館で借りて読んでみます」

「一高が代々B部門でコンクールに出場しているのも、人数が少ないの戦い方をして、その上で勝ちたいと考えて
いるからです」

そもそも僕、大所帯の吹奏楽部を指導したことがほとんどないですよ。遠い目をしながら、先生は自分の眉を掻
いた。

「教師になって三年目に中学校の吹奏楽部の顧問になりましたが、そこは部員が三人しかいませんでした。そこから何の
縁があつてか、僕が教える吹奏楽部は人数が少なくて、毎年悲鳴を上げています」

だからなのだろうか。先生の指導は、常に部員と真正面から向き合つて、お茶でも飲みながら語り合っているようだ。

外部から講師を呼ぶこともせず、代わりに自分が各地の指導者向け講習会に顔を出して、いろんな学校の、いろんな顧問
の指導方法を学んでくる。

「今年は給前さんが入ってきたことで、毎年頭を悩ませていた打楽器の不足がある程度解消されます」

志音と出会ったあのととき、間違ひなく自分の心は躍った。あの、臆病で悲しい顔をした志音に賭けてみたいと思えた。

何を？ それはもう、自分の言葉となっているじゃないか。

一緒に、東日本大会に行こう。

7 大志の顔を夕日が照らした。窓から差した太陽の光が、教室の後方に置かれたドラムの胴に反射し、ちょうど大志の顔

に当たったのだ。

『シーゲート序曲』で、行きますか」

右手を顔の前にかざし、そのまま先生を見る。

「他にはない、うちだけの『シーゲート序曲』ができるような気がします」

それくらい勝負しないと、勝ち残っていけないですよ。誰に伝えるでもなく、足下にぼとりと落とすように呟く。

8 先生はそれを聞き逃さなかった。

「日向寺君の部長としての目標はなんですか？」

「まず県大会出場。そして県大会金賞だと思います」

「随分ぼんやりとした言い方ですね」

では最終的には、どこまで行きたいんですか？ 椅子から身を乗り出す先生に、大志はたじろいだ。これ以上聞か
ないでくれ。そう言えば先生はやめてくれるだろう。でもそれは許されない気がした。

「俺は、中学のときからずっと東日本大会に出場したいと思つてたんです。それが発端となつて中三のときにトラブルが
起きました。しかもそのせいで、その年のコンクールには出られなかったんです」

だから。一度言葉を飲み込んで、大志は当時を振り返る。

「また同じ失敗をするのが怖いんだとわかってます。だから部長になるのも気が進みませんでした。そんな俺が部長とし
て東日本大会を目標にするのは、無責任かなって」

「じゃあ、部長としてではなく、日向寺君はどう思つてるんですか」

「行きたいですよ、東日本大会。でも、それを部員みんなに押しつけるのは、違うだろうと思つて」

自分の中に二つの気持ちがある。中学生の頃の、無邪気に東日本大会に行こう！ と拳を高く突き上げている自分。
自分勝手な意見を言わないで、みんなの気持ちを酌み取って目標を設定しようとしている自分。時と場合によって双方の
力関係は変化し、大志を困惑させる。志音に「東日本大会へ行こう」と言つたときのように。

「君は最高学年で、部長で、それなりに責任のある立場にいます」

「はい、だから……」

「でもたかだか十八歳です。僕から言わせれば餓鬼んちですよ、餓鬼んちよ」

11
そこから先を、先生は口にしなかった。数十秒待ったけれど、一向に言おうとしなかった。

「俺は、何か間違ってるんじゃないか」

その声は、思っていたよりずっと弱々しいものになってしまった。自信がない。怖い。自分の発した言葉の一音一音から、そんな声が聞こえてきそうだった。

「それは、君が部活を引退するときにも、わかるんじゃないでしょうか」

先生は小さく笑ってプレイヤーを停止させた。

「最終的な目標をどうするか。それによってみんなの練習も、僕の指導の仕方も変わります。日向寺君に一任するわけではありませんが、近いうちに何らかの答えを出す必要がありますね」

とにかく、コンクールは『シーゲート序曲』で行きましょう。そう言って、先生はプレイヤーを片付け始めた。

「僕が吹奏楽部を指導し始めて三十年以上たちました。教師も吹奏楽部の顧問も、永遠には続けられません。一度でいいから、僕は教え子を最上位大会へ連れて行ってあげたいと思っています」

もちろん、君達がそれを望むなら、ですが。そう続ける土子先生に、大志は曖昧な頷きだけを返した。

《額賀 澤『屋上のウインドノーツ』より》

(注) スウエアリンジェン……アメリカの作曲家。

転調・対旋律……音楽における表現技法。

志音……大志に誘われて吹奏楽部に入部した女子生徒。名字は給前。

ピーナッツ……アメリカの漫画家チャールズ・M・シュルツによる漫画。主人公のチャーリー・ブラウンの飼いがスヌーピー。

B部門……全日本吹奏楽コンクールにおける、上限三〇人の小編成部門。東日本大会はB部門における最上位の大会。

問一——1「ひっきりなしに」・9「たじろいだ」の文中の意味としてふさわしいものを、次の中から一つずつ選び、

記号で答えなさい。

1
ア、意味もなく
イ、あてもなく
ウ、きまりなく
エ、とぎれなく

9
ア、怒った
イ、ひるんだ
ウ、悲しんだ
エ、いやになった

問二——2「それとは、ちょっと違います」とありますが、大志は部長になったことについてどう思っていますか。

ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、先生を信頼している自分に後悔はないが、部員も同様に先生を信頼しているかは不安であった。
イ、部長になったこと自体は後悔していないが、先生に部長を押しつけられたことは不満に思っている。
ウ、すでに部長となってしまうことは後悔していないが、これから先部長としてやっていく自信がない。
エ、後悔をしているわけではないものの、過去と同じ失敗を繰り返してしまうのが怖くて気は進まなかった。

問三——3「体に馴染む曲」とありますが、大志のこの曲への印象が、身体の一部を使った比喻で表されている部分を、文中から二五字以内で抜き出さなさい。

問四——4「配られたカードで勝負する」とは、具体的にどういうことですか。文中の言葉を使って三〇字以内で答えなさい。

問 五 — 5 「強ばっていた体から力が抜けてしまった」とありますが、このときの大志の様子の説明としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、「勝負」を強制されてとまどいを隠せなかったが、漫画から引用した冗談と知り安心した。
イ、「勝負」を口にした先生の態度に力強さを感じたが、漫画からの引用と知りばかしくなった。
ウ、「勝負」という先生の強い言葉に緊張していたが、漫画からの引用と知り緊張が一気にゆるんだ。
エ、「勝負」という先生に似合わない言葉に耳を疑ったが、漫画からの引用と知りやはり先生らしいと納得した。

問 六 — 6 「遠い目をしながら」とありますが、このときの先生的心情を説明したものとして、ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、先生は、少人数の指導を自ら望んできたわけではないが、少人数だからこそできる一人一人への親身な指導をしようといつも考えている。
イ、先生は、常に少人数の吹奏楽部しか指導してこなかったことを恥ずかしく思い、吹奏楽部の部員たちと入部者を増やす方法を考えて語り合いたいと思っている。
ウ、先生は、自分の指導力が足りずに部員を増やすことができないことを申し訳なく思い、少しでも自分の努力によって部員たちに満足の行く活動をさせてあげたいと思っている。
エ、先生は、これまでに指導してきた吹奏楽部がいつも少人数で、自分が思っていた指導はできなかったということを深く悔やみ、一度でいいから大所帯の吹奏楽部でコンクールに出場することを夢見ている。

問 七 — 7 「大志の顔を」当たったのだ」とありますが、この表現の説明としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、志音が部員となってくれたことを喜ぶあまり、周りを考えずに目標を口にしてしまったという後ろめたさが、反射された強い太陽光線を直視できない状況によって、表現されている。
イ、大志が、部長としての責任感や志音への思い、また土子先生の希望を考えた末に、長い時間をかけてコンクールの曲を決めたということが、沈みゆく日の光によって、表現されている。
ウ、打楽器奏者である志音が部員となり、東日本大会への出場も狙えるようになった、という大志の鮮やかな希望が、志音の担当する楽器が光を放っているということによって、表現されている。
エ、上位の大会への出場という目標を口にすることをためらう大志に、自分で決断できるまで優しく見守ろうとしている土子先生の姿が、楽器が美しく輝いているという描写によって、表現されている。

問 八 — 8 「先生はそれを聞き逃さなかった」とありますが、ここで先生が「聞き逃さなかった」のは、大志の発言のどんな点ですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、「それくらい勝負しないと」という、自分の案に賛同している点。
イ、「勝負」「勝ち残って」という、勝って上を目指す意志をうかがわせる点。
ウ、「誰に伝えるでもなく」という、自分を無視するかのような傲慢さが表れている点。
エ、「勝ち残っていけない」「足下にぼとりと落とすように呟く」という、弱気を感じさせる点。

問九——10「大志を困惑させる」とありますが、具体的に何が「大志を困惑させる」のですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、部長としての責任を果たす前に、自身の願望を表に出してしまうこと。
- イ、部員全員の意見をまとめる前に、一部の部員の意見が先行してしまうこと。
- ウ、自分の意見をはっきりさせる前に、部長としての責任がそれを抑えこんでしまうこと。
- エ、部長としての自分の意見は変わらないが、部員たちの意見が一定せずまとまっていないこと。

問一〇——11「そこから先を、先生は口にしなかった」とありますが、もし先生が言葉を口にしたら何と言ったと思いますか。自分なりに考えて答えなさい。

問一一 この文章における先生と大志の心情を説明したものとして、ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、先生は東日本大会を目標とすることに迷っていたが、大志の本当の思いを知ることとその意欲を感じ、一緒に目指していく決意を固めることができた。
- イ、先生の東日本大会に対する秘めた思いを明かされることで、大志も過去の傷みを振り切ることができ、大きな目標に向かう心構えを持つことができている。
- ウ、先生自身は東日本大会への出場を目指すことを当然と思っていたが、大志の部長としての苦しみに触れることで、自分の考えを押しつけることに迷いが生じてきている。
- エ、東日本大会を目標とする強い意欲を持っている先生に、大志も本当の望みを口にすることができたが、部長としての立場を気にしてしまい、まだその目標に突き進む決心ができていない。

【以下余白】

[illegible]